HARLEM

February 2000 02

SPIT'EM OUT! "It's absolutely RAW"

-This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene...-

CONTENTS OF FEBRUARY 2000

SPECIAL INTERVIEW
"MURO" for KING of DIGGIN' Production — page 01

EVENTS SCHEDULE
- February 2000 — page 02

RECOMMENDED EVENTS
- Event Information

LOUNGE ANGELO
- Information

HARLEM SHUTOUT
- Information — page 03

EVENT REPORT
- '99.12.24 & 25 "HARLEM X'mas 2 Day's"
- '99.12.31 "Millenium Bash in HARLEM 1999-2000"

DINNING ANGELO
- Information — page 04

LAZY-K INTERVIEW
"H" PEOPLES
- Snap Pics in Dec.1999 - Jan.2000 — page 05

DISCS FILE
- Selected by HomeBass Records

COLUMN
- 01. Zeus -02. DJ Magara
- 03. Masatora
- 04. Verbal -fro. m-flo-

FROM OVERSEAS
- Reported by Hiro fro. NYC — page 06

SYOGYO-MUJO-NO-HIBIKI-ARI
- by Maki the Magic

SHOW
- Presented by Canser

Mo' Info

WEB SITE - Information

Voices — page 07

Guntez Records
- Complete The Guntez Records GUNCO-005 — page 08

special Interview MURO for KING of DIGGIN' Production

日本のHIP HOPシーンの先駆者とも言える、'KING OF DIGGIN' MURO。移りゆくシーンを見続け、今なお先頭に立ち続ける王者の本音を心で感じて欲しい・・・。絶賛発売中のAG&LORDFINESSEらとのコラボレーションシングルはもうチェックしたか？！

●どうですか最近は？お忙しそうですね。

そうですね、アルバムのほうをちょっと録り始めているので。

●レコーディングはどれぐらい進んでいるのですか？

6〜7割ってところですかね。まだまだ、ちょっとやり足らない事があって。あれも、これもになってしまうんで(笑)。でもだんだん構想みたいなのが自分の中でなんとなく出来上がって来ました。

●シーンを引っ張ってきた当人として、最近のHIP HOPシーンについてどう思いますか？

クラブでもヒップホップのイベントが一時期に較べたら、ケタが違うぐらいお客さんが入るようなったし、割と一般にもヒップホップっていうのが浸透してきたので、ここで骨太で本当の自分で通ってきたところみたいなものを伝えられたらなと思って。やっぱり、一生懸命やってる人に、一生懸命に帰ってくる時代になって来てると思いますね。ひと段落ついて、本気で好きな人が、今残っている感じになっていますね。

●HARLEMでもクラブプレイを通じて変化とかありますか？

踊る楽しみとか、大音量で聴く楽しみとかが感じられますね。一時期よりは、前ほどブースの所で音を出しているコも減ったし。凄くイイと思います。HARLEMで回すのはヒップホップとR&B中心で、時折ダンスクラッシックとか混ぜたりとか。このハコでコレをかけるかっていうのが好きなんで。「コレはHARLEMっぽくないよ」っていうのを自分の中で料理して、HARLEMっぽい音に持っていくのが得意なので。HARLEMでもジャズっぽいのかけたりして若いコがそういうのに興味示してくれるのが嬉しいし、そういう事で広げていくのが自分のポジションっていうか、出来る事なのかなと思いますね。

●MUROさんは、昔からずっとヒップホップのベーシックな部分を押さえつつ、新しい事をやってきてると思うのですが・・・。

それは、やっぱりDJクラッシュからの影響があると思うんですけど。「人と同じ事していちゃ駄目だよ」っていう・・・。そういうコンセプトでクラッシュ・ポッセっていうのは成り立っていて、なんか、やっぱり「真似するよりは、真似される方がいい」っていう感じだったんで、新しい事は常に試みてるつもりなんです。でも、若い子でティンバランドのチキチキやNASの新しいのから入った子は、やっぱりベーシックな部分を、本当にヒップホップの基本という、ブレイクビーツで歌うという事、先を見過ぎちゃって忘れがちだなと思う事が多かったので。基本的なところは2枚のレコードを繰り返しリピートして、そこにラップをのせて、そのリピートしているレコードがファンクだったりジャズだったりして・・・。新しいシングルは、そういうのもあって、こういう曲に作ったっていうのがありますね。

●その新しいシングルにはロード・フィネスやA.G.がゲストで入ってますね。

やっぱり、いちばん影響を受けた連中だったので。D.I.T.C.ってもっとセールス的にもイッていい人達だと思うんですよね。日本だったら、もっと、本当に売れていいのになぁって思うんですよ。

●彼らは色々なインスピレーションを与えてくれますか？

そうですね、はい。やっぱりクラブプレイとかで盛り上がる曲は盛り上がるし、ロード・フィネスのファーストのレア・グルーヴのネタ使いとか、彼のネチっこい、でも尖っているフロウだったりとか、そうですね、全てにおいて影響は受けましたね。もう一方でショウビズとA.G.も凄い好きで、ファイル・レコード時代に1回ショウビズには仕事してもらったんですけど。A.G.とはやったことなくて。海外の人と誰かコラボレーションするのだったらっていう時に、思いつく野は彼らしかいなかったので。

●そもそも彼らと知り合ったキッカケは？

キッカケは、93年の夏にニューヨークに行った時、レコード・コンベンションって、こっちでいう「レコード祭り」みたいのがあって、そこに行ったら、クリエーターのフィネスだったり、ショウとかダイアモンドとかが来てて、で、一緒に写真とかサインとかもらったりして(笑)。そこから、なんか「オマエもビート買ってるのか？」という話になって。それからですね、交流を持つようになったのは。

●やはり、同じレコードを掘る者同士というか・・・。

そうですね、それにロード・フィネスやダイアモンドにしても、凄い似てるというか、プロデュースもするし、ラップもするし、ビートも買ってるし、似ているところが多くて。

●日本にヒップホップが根付いているのに驚いていませんでしたか？

凄い驚いていましたね。それに和モノも結構渡しているというので、その後もFAXとかでやりとりしてました。

●そうすると、今回のシングルは「満を持して」という感じですね。

そうですね、本当に。

●彼らとはプロモーションビデオでも共演してますが、

彼らの生まれ育った所を1回見てみたかったんで。夜とかにも何回かロード・フィネスの自宅に遊びに行ったりしたんですけど、ニューヨークって昼間と夜とで全然顔が違うから、そういうところが面白かったし、また、刺激になって。

●実際の彼らの人柄は？

ロード・フィネスは凄く似てますね。僕と。のんびりしてて(笑)。家に帰ってからの行動とかも、凄い似てるなとか思って。A.G.は、こっちでいう「チャキチャキの江戸っ子」みたいな感じですかね。威勢が良くて友達がいっぱいいて。フィネスは自分でスパゲッティとか作ってて「スパゲッティって何分茹でるんだっけ？」とか(笑)。で、やっぱり常に音をかけてて「コレ知ってる？アレ知ってる？」とかで。

●ロード・フィネスのターンテーブルが置いてある環境はどうでしたか？

あー、なんか、こう自分の安らぐスペースっていうか、女子供は入れないよみたいな。ミルクケースでクレイツを積んであるだけなんですけど、そこはひとりぐらいしか入れないような椅子が1個置いてあって。僕も自分の部屋は、そういう感じなんで。僕の場合は寝て起きて準備する曲があって、その日の天気とか予定でその都度違いますけど。

●MUROさんの場合、ターンテーブルまでの距離はどれぐらいなんですか？

僕の場合は、足振ってベッドから起きて2歩ぐらいですかね(笑)。部屋が狭いのかな。カートリッジまで5秒ぐらいですね。フィネスの場合は寝室は、また別で。レコードをかけっぱなしで最後に針がプチップチッといって寝るタイプではない人ですね。わりと几帳面でジャンルもキチっと分かれてて。A型なんだなって。

●ビデオでは、彼らの普段の日常生活が出てるカンジですね。

そうです。それを出したかったんですよ。向こうだと、ああいう床屋に知り合いのちょっとビート持ってる奴が売りに来たりとか、良くある光景なんですけど。コレとソレをトレードしようよとか。床屋さん、日本だとそういうイメージ全然ないですけど(笑)。床屋さんの椅子が欲しいんですけど、なかなか見つからなくて・・・・・。

●MUROさん自身の普段のライフスタイルのポリシーはどんなものですか？

服も音もそうなんですけど、人と同じ事が凄い嫌いというのはありますけどね。みんながあそこの店に行くから、自分も行くというのは好きじゃなくて。自分で、こう、発掘するのが好きだから。やっぱり。またDJクラッシュの影響になっちゃうんですけど、レア・グルーヴを買い始めた当初、どんな音楽でも取ってきて、自分の音になるっていうところに惹かれて、どんな素材でも自分のモノにできるというのが面白くて。そういう面でヒップホップが自分の肌に合っていたんだと思いますね。はじめの頃はメシ食うのも忘れてレコードを買ってる時とかありましたから。でも、なんか、メディアとかで大袈裟に言われたりとかしてるかもしれないけど、本当に僕は、ただ単に好きな事をやっているってだけで・・・・・。あまりそういう意識はないんですけど。ただ、変なところで妥協せずに自分の音をやっていて良かったって思いますね。

●今の若いコ達にも、そういう面をもっと楽しんでもらいたいという気もするんですが。

なんか、雑誌だったりとかクラブで誰かがかけてる音だったりとか・・・・・。興味を示す範囲が狭いというか一部しか見れないっていうか。前から言っているんですけど、もっと視野を広げれば、もっとヒップホップが面白くなるのにって。でも、自分のまわりの若い子は凄いっていうか、色々と興味を示していますからね。なんか日本でも一時期、東の音とか西の音とかあって、変なポリシーを持った時期もあったんですが、向こうのヒップホップをずっと追っかけてて。でも、今、この時期に来てそういうのが本当になくなって、日本は日本の音みたいなのが出来てきたような気がするんですよ。だから、もう本当に自由にやれる環境ですし、やっていいと思いますよね。もっと。やっぱり自由というところにも、いちばん面白いところがあるし、本当になんでもアリというのが音楽にしてもファッションにしても。

●ベーシックな部分は普遍的であって・・・・・。

そうですね。そこさえ理解してもらっとけば、後は、なんでも切って取ってきて、張っつければ出来あがる訳だから。

●去年、リリースされたトミーボーイ・レーベルのミックスCDには、その新しいモノから普遍的なモノが網羅されているように思ったんですが。

あれはもう、最近のノリエガだったりとか、その辺のアーティストからアフリカ・バムバータまで、ずっと足跡を辿って行くというストーリーになっていて。僕が探偵になって追跡していくという物語にしようと思ったんです。前半から中盤にかけては、その辺の感じが出てると思います。トミー・ボーイは昔から本当に冒険が好きなレーベルなので。生音入れてみたりとか。最近ヒップホップを聴きはじめた若い子に聴いてもらいたいっていうのはありますね。旧譜を聴いてても、ある程度の時期から前は聴かないとか、そういうのがあったりして。そこから前の時期を聴かないとファンクも聴けないのになっていう、生音の良さっていうのも・・・・・。レコード屋さんもドラムの入ったレコードが売れないとか、LPが売れないとか言ってて・・・・・。

●最近のレコード屋さん巡りは、どんなカンジなんですか？

行ってますね。毎日(笑)。もう、宇田川町にいれば2〜3軒は見れるんで。

●地方のレコ屋さんとか行くと「先週、MURO君来たからねぇ・・・・・」とか言われたりしてますよ。

なんか、凄い大袈裟な事になってるんですよね、地方とか行くと(笑)。地方とかは、全然、品揃えとか違うから面白いんですけどね。なんか、変なのがコロっとあったりとか。変な値段で出てきちゃったりとか。

●どんなレコードが面白いですか？

う〜ん。そうですね、地方とかだと下の方にある500円均一の箱とかをバーっと漁るのが好きですけど。自分でも昔より、幅が広がっているなっていう気がしますね。サントラとかも本当にヨーロッパの映画とか、あまり興味がなかったんですけど、そういうの買ったりとか。まぁ、和モノだったり、アジアのモノだったりとか、結構掘ってますね。また、なんか自分の中でサウンドトラックが流行ってて面白いですね。そのサントラを聴いて自分で勝手に物語を組み立てちゃって、で、その映画を見て「あ〜実はココはこうだったんだ」とか「この音楽はココで使われてるんだ」とか、そういうのが凄い楽しいですね。そういうのも、やっぱりヒップホップだと思うんですよ。もう、すべて音からなんですよね、発想が広がっていくのが。それがやる気に繋がっていったりするし。そういのを見つけていくのがヒップホップだと思うんですよね。

●ショップSAVAGE！もオリジナルに力を入れているようですが。

オリジナル・デザインを考えたりするのは楽しいですね。実家に帰った時に、昔の小学生の時の服とかボロっと出て来たりして「これポケットがこんな所に付いてる」とか言って、それをこう、もとにしたりとか。

●2000年のプランは？

とりあえず、アルバムを出して・・・・・。それにいっぱいメッセージを込めて出すのがいちばんって思ってますよ。

●これを読んでいる人達にメッセージをお願いします。

さっき言ったように視野を広げておいてもらえたら、アルバムがもっと面白く聴けるんじゃないかなと。いろんなタイプの曲調が入ると思うんで・・・・・。

CD Album
"Follow the Foot Step of Tommy Boy"
Tracked Down by DJ MURO
TFCK-87715 ¥2,100 tax in
Now On Sale

12cm CD
"THE VINYL ATHLETES"
(真ッ黒ニナル果テ)
MURO feat. Lord Finesse & A.G. (from Diggin In The Crates)
TFCC-88228 ¥1,223 tax in
Now On Sale

Video Clips
"THE VINYL ATHLETES"
(真ッ黒ニナル果テ)
MURO feat. Lord Finesse & A.G. (from Diggin In The Crates)
TFVC-68042 ¥1,890 tax in
Now On Sale

SAVAGE! TOY'S FACTORY